

令和6年 奥多摩町長 施政方針

(令和6年第1回奥多摩町議会定例会第1日：令和6年3月1日)

おはようございます。

令和6年第1回奥多摩町議会定例会の開会にあたり、新年度の町政に対する所信を申し述べ、町議会並びに町民皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1 はじめに

令和6年は、町民皆様からの負託を受け、町政を担うこととなってから4年が経過し、任期を終える年となります。

この間、私が町長の重責を果たすことができましたことは、町民皆様、議員皆様のご支援とご協力の賜物であり、この場をお借りしまして、心より感謝を申し上げます。

この4年間は、令和元年10月の台風第19号による広範な災害復旧事業に加え、日本のみならず全世界を襲った新型コロナウイルス感染症への対応を最優先に取り組むとともに、並行して、「みんなでつくり、次世代へ繋げるための庁舎建設整備事業」また、民間事業者等との連携では、「JR東日本八王子支社との「東京アドベンチャーラインや沿線まるごとホテル事業」、野村不動産ホールディングス株式会社との「循環する森づくりを目指す地域資源活用事業」、多摩大学との「多機能型地域活性化拠点のオープンを控える大学連携事業」、さらには、町、VERTERE（バテレ）合同会社及びJR東日本グループの3者連携による新工場の設立など、町有財産の利活用等に取り組んでまいりました。

これらの事業につきましては、ウィズコロナの頃から地道な作業やステークホルダーとの協議を進めてまいりましたが、アフターコロナへの転換に伴い、いよいよ本格稼働していくこととなり、今後、より一層推進してまいります。町における長年の課題であります、過疎化、少子高齢化をはじめとする様々な解決すべき事柄につきましても、私が先頭に立ち、職員と一丸となって、町民皆様の考えや思いを斟酌しながら、町の将来を見据えて着実に歩みを進め、町政の進展を図ってまいります。

次に、近年、全国で災害が激甚化、頻発化する中、令和6年元日、石川県能登地方を震源とする大規模な地震が発生いたしました。この場をお借

りしまして、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族の方、そして被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

また、翌2日には、羽田空港において、日本航空の旅客機と海上保安庁の航空機が衝突する事故が起こり、日本航空機は機体が炎上する中、乗員乗客全員が奇跡的に避難する一方、海上保安庁機は残念ながら、搭乗者がお亡くなりになってしまいました。この事故でお亡くなりになられた海上保安庁の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

日本航空機の乗員乗客全員が脱出できた背景には、乗員のリスク対策、臨機応変な判断力、何より、日頃の訓練の賜物であったと痛感しており、リスク管理や訓練の重要性を改めて認識したところであります。

一方、能登半島地震においては、激しい揺れによって陸路が寸断され、関係機関の支援が困難を極める中、地元消防団は、自らも被災しながら、地域住民の命と安全を守るべく、懸命に活動を展開されました。

こうした状況を見ますと、やはり消防団を含め、地域住民同士の助け合いがいかに重要か、改めて痛感するとともに、依然として減少が続く消防団員を確保し、十分な体制を構築していくことが不可欠であるとの思いを一層強くいたしました。消防団員の確保に向けては、消防団員皆様の考えや思いを斟酌しながら、消防団活動の「やりがい」を高め、「負担感」を軽減する対策を講じるとともに、「風通しの良い組織づくり」が必要であると考えております。

いずれにいたしましても、東日本大震災から13年が経とうとしている今、町と住民、消防団及び自治会、並びに関係機関が連携し、一体となって、地域防災力の充実・強化へ向けた取り組みを進めてまいりますので、議員皆様にもご理解並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成27年度からスタートいたしました「第5期奥多摩町長期総合計画」は、令和6年度で計画期間が終了し、令和7年度からは、「第6期奥多摩町長期総合計画」がスタートすることとなり、策定に向けた取り組みでは、昨年7月に「第5期長期総合計画」の進捗状況を住民皆様の視点で評価していただくとともに、「まちづくり」に対するお考えや将来へのご意見、ご提案などをいただき、新たな「第6期長期総合計画」に反映していくことを目的とした住民アンケート調査を実施いたしました。

また、昨年10月には、若手職員等の育成及び住民等から意見をいただくため、「長期総合計画策定に係る若手職員ワーキンググループ」を設置し、メンバー10名で、3回の作業部会において、アンケート調査結果を

含めた「第5期長期総合計画」の検証、総括を行ってまいりました。

さらに、年明け1月から2月にかけて、このワーキンググループメンバーが多摩大学総合研究所の指導及び協力のもと、「第5期長期総合計画の総括」や「今後のまちづくりの方向性」について話し合う「住民ワークショップ」を古里、氷川、小河内の3地区で開催し、多くの参加者により、毎回活発な意見が交わされておりました。

今後、「住民ワークショップ」や今月中に実施予定の「第6期長期総合計画の策定に向けた意見募集」でいただいた意見の取りまとめ作業を行い、策定に向けた取り組みを進めてまいりますので、議員皆様には、引き続き、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2 町を取り巻く国・都の行財政状況について

次に、国の動向ですが、先月21日に政府から発表されました月例経済報告によりますと、「景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。」と報告され、「先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。」との基調判断が示されております。

国の令和6年度予算案であります。歴史的な転換点の中、時代の変化に応じた先送りできない課題に挑戦し、変化の流れを掴み取る予算として、一般会計の総額は112兆5,717億円と2年連続で110兆円を超えて、過去2番目の規模となりました。また、物価・賃上げ促進予備費として、1兆円、能登半島地震の復旧や復興へ機動的に拠出できるよう、一般予備費として、1兆円が計上されております。

次に、東京都の動向ですが、発表されました予算案によりますと、「変化する社会情勢の中、東京・日本の輝かしい未来を切り拓くため、産業や経済、社会の構造転換に挑み、一人ひとりが輝く明るい『未来の東京』を実現する予算」と位置づけ、東京が日本の成長・発展を牽引し、持続可能な都市へと発展するため、「人が輝く」、「国際競争力の強化」、「安全・安心」の観点から都市力を磨き抜く大胆な施策を積極的に展開する。また、都民が実感できるクオリティ・オブ・サービスの向上のため、デジタルによるサービス改革を深化させるなど、社会構造の変化を踏まえて、制度や

仕組みのアップグレードを図りながら、強靱で持続可能な財政基盤を堅持することを基本に編成されております。

一般会計の総額は、８兆４，５３０億円で、「人」が輝く社会の実現、国際競争力の強化、安全・安心の確保に向けた取組に重点的に予算配分したことなどにより、前年度に比べて４，１２０億円の増と、過去最大となりました。

特に、多摩・島しょの振興では、地域の活力や魅力の更なる向上、持続的な発展に向けて、地域が持つ資源に磨きをかけるなど、それぞれの地域の特色を活かし、実効性のある取組を推進するための予算として、２，６３３億円が計上され、また、過疎化による少子高齢化が進む中、町税収入も厳しい状況が続く、財政基盤が脆弱な町にとって、大変重要な一般財源を補完する市町村総合交付金が、前年度比２８億円増の６２０億円で計上されております。

３ 令和６年度町予算の基本的な考え方

町においては、過疎化に伴う少子高齢化の進行により、高齢化率は令和６年２月１日現在で５２．５％と、６５歳以上の住民が人口の半数以上におよぶ状況の中、町財政における自主財源の要である町税収入は、７億円を下回る状況となっております。

一般会計における歳出では、公共施設の老朽化に伴う更新や維持補修等に掛かる費用が増大していること、また、下水道整備に伴う起債の本格的な償還や奥多摩病院における照明設備や医療機器の更新に一般会計から多額の補助金等の支出が必要なこと、さらには、庁舎建設に向けて事業が本格化するなかで、歳入では、国から交付される地方交付税を前年度と同額の１８億５千万円で計上し、町の歳入で最も大きな割合を占める東京都支出金は、２４億８千万円で計上いたしました。なお不足する財源には、基金からの取り崩しである繰入金を７億６千万円にすることで財源手当をし、予算編成を行いました。その結果、令和６年度の一般会計の予算規模は、６９億５千万円となり、前年度比較では６千万円、率にして０．９％の減となります。

基金の現在高につきましては、引き続き、下水道事業における起債の償還に充当するための取り崩しをはじめ、財源不足分の補填として取り崩しを行うことから、令和６年度末には減額となる見込みであり、財政状況は極めて厳しい状況にあります。

一方、個々の事業につきましては、毎年度実施している実施計画策定の

中で、費用対効果の面から見直しを行っておりますが、引き続き、町民皆様が「何を望み」、「何を優先すべき」と考えているのか、町民皆様の目線に立ち、それらを敏感に感じ取りながら、限られた人材、限られた財源の中で創意工夫を行い、歳出全般の効率化を図るとともに、予算執行においては、関係法令等に則り、各種の事務事業を適正かつ迅速に執行してまいります。

令和6年度の一般会計予算における歳入の主な構成ですが、都支出金が24億8,100万円、構成比35.7%、前年度比4.0%の減で、観光施設整備等事業補助金を2千3百万円の増、都補助林道改良（舗装）事業補助金を1千3百万円の増、東京都知事選挙費委託金を1千1百万円の皆増で見込んでおりますが、公共施設調整交付金を一般会計を経由せず、下水道事業会計への直接受入としたため、1億8千5百万円の減、公立学校施設トイレ整備支援事業補助金を8百万円の皆減で見込んでおり、都支出金全体では、1億3百万円の減額となっております。

また、東京都市町村総合交付金につきましては、前年度と同額の14億3千万円で見込んでおりますが、実際の交付時には、増額となるよう、引き続き、努めてまいります。

地方交付税は18億5千万円、構成比26.6%で、前年度と同額で計上しております。

町税は6億5,500万円、構成比9.4%で、前年度比2.3%の減となり、町たばこ税、鉱産税は微増の見込みとしておりますが、個人、法人町民税、固定資産税及び軽自動車税を減額で見込み、町税全体では、1千5百万円の減額となっております。

また、積立基金からの繰入金は7億6千8百万円で、令和6年度におきましても多額の基金取り崩しにより、予算を編成しております。内訳といたしまして、庁舎建設整備事業の財源として、庁舎建設基金から1億5千万円、下水道会計における起債償還費の財源として、減債基金から1億4千万円、町道の維持補修、災害防除工事の財源として、公共施設整備基金から6千万円、観光施設の改修工事の財源として、観光施設等整備基金から7千万円、小学校における指導書購入費等の財源として、教育文化振興基金から9百万円、その他財源不足分の補填として、財政調整基金から3億2千万円を、それぞれ取り崩し、財源手当を行っております。

このように、町における歳入の62.3%を国の地方交付税と東京都支出金が占め、自主財源である町税の9.4%を大きく超える状況の中、基

金を取り崩すことによる繰入金の割合も11.1%を占め、大変厳しい状況の中で歳入の予算編成を行っております。

次に、歳出の主な構成ですが、まず、総務費は12億6,351万円、構成比18.2%で、前年度比3.7%の減となっており、電子計算開発費が5千4百万円の増、財産管理費が2千3百万円の増、バス路線維持対策費補助金が1千6百万円の増となっておりますが、庁舎建設整備事業費が1億7千9百万円の減、町議会議員選挙費が2千1百万円の皆減となっており、総務費全体では、4千8百万円の減額となっております。

次に、民生費は12億3,942万円、構成比17.8%で、前年度比4.1%の増となっており、放課後児童健全育成事業費が2千1百万円の皆減、保育所措置費が1千2百万円の減、高齢者在宅サービスセンター事業費が7百万円の減となっておりますが、放課後居場所づくり事業費が4千7百万円の増、子ども家庭支援センター事業費が1千8百万円の増、社会福祉協議会補助事業費が1千2百万円の増となっており、民生費全体では、4千9百万円の増額となっております。

次に、土木費は12億664万円、構成比17.4%で、前年度比1.6%の減となっており、下水道会計が令和6年度から公営企業会計に移行すること及び補助金の取扱いを改めることから、下水道特別会計繰出金を6億2千3百万円の皆減とする一方、下水道会計補助金が4億3千2百万円の皆増となっております。このほか、川井松葉地内分譲地造成工事が8千5百万円の皆増、水根線災害防除工事が5千万円の皆増、丹三郎水神前定住対策用地購入費が3千9百万円の皆増、川井神塚東線物件補償費が2千8百万円の皆増、坂下中井戸線道路新設工事が2千7百万円の皆増となっておりますが、南平熊沢線道路新設工事が3千3百万円の皆減、境梅久保線災害防除工事が2千5百万円の皆減、丹三郎水神前実施設計委託が1千6百万円の減、川井神塚東線道路新設工事が1千5百万円の減、梅久保中山線災害防除工事が1千3百万円の減となっており、土木費全体では、1千9百万円の減額となっております。なお、下水道会計における公債費は、順調に償還が続いており、前年度比1千9百万円減の2億9千7百万円となっております。

令和6年度の一般会計予算規模は、庁舎建設整備事業費の減などにより、前年度を6千万円、率にして0.9%下回る69億5千万円となり、引き続き、非常に大規模な予算を執行していくこととなります。

町全体の予算規模といたしましては、一般会計のほか、特別会計であります都民の森管理運営事業、山のふるさと村管理運営事業、国民健康保険、

後期高齢者医療、介護保険及び企業会計であります下水道事業、病院事業を加えた8会計合計で、107億4,823万6千円となり、前年度に引き続き、100億円の大台を突破する大型予算となりました。前年度比較では、2億6,110万4千円、率にして2.5%の増となります。

4 令和6年度の主要な事業について

次に、まちづくりにおける町の最上位計画であります「第5期奥多摩町長期総合計画」の施策の大綱に沿って、令和6年度予算案の中で、特に重点としている施策や新規事業につきまして、ご説明申し上げます。

「第1章 みんなで支えるホットなまちづくり」として、

○「誰もが元気で健康に暮らせる地域づくり」では、町民皆様が明るく健やかに暮らすためには、まず、健康でなければなりません。このための各種検診事業、保健推進活動事業、定期予防接種事業、食育推進事業、健康相談事業などの疾病予防につながる事業を実施するほか、健康維持のための口腔ケア実施体制を推進していくとともに、地域医療体制及び医療保険制度の適切な事業運営が図られるよう、着実に努めてまいります。

また、国が「新・放課後子どもプラン」において推進する学童クラブ事業と放課後子供教室との連携について、町の学童保育会と新たにスタートする放課後こども教室を民間に委託することで一体的に実施し、「放課後居場所づくり事業」の充実を図ってまいります。

○「安心して子どもを産み育てる地域づくり」では、過疎化による少子高齢化が進む当町において、子どもや子育て家庭の環境づくりのため、結婚、出産、産後ケア、子育てまできめ細やかな支援を行ってまいります。

特に、重点施策の一つとしている少子化・定住化対策を継続し、子どもや子育て世代の増加を図り、自治会等による地域の絆の維持、活力の向上に努めてまいります。

○「高齢者が生きがいを持って暮らせる地域づくり」では、多くの高齢者は、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことを望んでいることから、町職員、地域包括支援センター職員、高齢者見守り相談員、社会福祉協議会、民生・児童委員等が連携を行いながら、在宅高齢者への福祉サービスを引き続き、推進してまいります。

また、地域の高齢者の会食や会食を通じた交流の場を確保することで、

高齢者の交流機会の増加、心身の健康増進、多世代交流の促進を図る「長寿ふれあい食堂推進事業」を自治会と連携し、展開してまいります。

○「障害者が自立して生活できる地域づくり」では、障害のある方が地域の中で自立して自分らしく生活を送ることができるよう、ノーマライゼーションの実現へ向け、医療・福祉などとの連携や継続的な支援相談体制の充実を図ってまいります。

特に、障害者地域活動支援センター「かもんみーる」の円滑な運営と社会参加が図られるよう、引き続き、推進してまいります。

○「心のぬくもりと絆を持ち続けられる地域づくり」では、町では、自治会や隣組などによる地域での支え合いや助け合いによる地域コミュニティの力は非常に強いものの、少子高齢化等の影響により、これまでどおりの地域での支え合いが困難となることも想定されます。地域ささえあいボランティア事業、高齢者見守り事業などを通じ、安心して暮らすことができるよう、民間の力も借りながら、強い地域の絆の維持を推進してまいります。

「第2章 やさしさ ふれあい 人と自然」として、

○「自然とともに歩むまちづくり」では、町は、豊かな森林資源と水資源に恵まれ、町内全域が秩父多摩甲斐国立公園に含まれていることから、町の環境を適切に保全していくため、「ごみを減らす10アクション」など、ごみ減量化へ向けた取組を推進し、環境に配慮した循環型社会の形成に努めるとともに、生活基盤として重要な役割を持つ道路の整備や下水道への接続についての普及啓発活動、簡易給水施設の安定的な維持管理を行ってまいります。

また、地域の一斉清掃は、5月30日の「ごみゼロの日」を中心に、環境美化活動として、住民皆さんにご協力とご尽力をいただいているところであり、引き続き、美化活動の支援を行ってまいります。

なお、観光ごみ対策では、新たな試みとして、観光ごみ引き取り業務委託を進めてまいります。

○「誰もが住みたくなる心かようまちづくり」では、これまでも住民と行政との協働によるまちづくりを推進するために、住民が主体となったまちづくり活動への支援を行ってまいりましたが、引き続き、住民がまちづ

くりへの参加ができるよう、取組を行ってまいります。

また、自然災害等への備えといたしまして、引き続き、警察、消防及び東京都等の関係機関と連携を図りながら、危機管理体制の強化に努めるとともに、地域住民の安全・安心を確保するため、災害時には、危機管理対応を果たす防災拠点としての機能を持つ新庁舎の整備推進を目指してまいります。

「第3章 町の中と外から関心を持たれる教育のまちづくり」として、

○「みんなでチャレンジする生涯学習のまちづくり」では、文化会館や図書館などは指定管理施設として、生涯学習の拠点となっておりますが、さらなるサービス向上に努め、適切に管理運営を支援してまいります。

また、他地域や海外の人材と積極的に交流できる機会を提供するため、友好交流を締結した神津島村での洋上セミナーのほか、海外との交流として、オーストラリアへの海外派遣事業及びホームステイでの受け入れ事業など、引き続き、実施してまいります。

○「豊かな能力と強い心を育むまちづくり」では、各学校における施設や設備については、小中学校補修工事や古里小学校屋外非常階段塗装工事など、児童・生徒が健やかに教育を受けることができるよう教育環境を整備いたします。

○「伝統と先進の文化・芸術にあふれたまちづくり」では、町内の郷土芸能を次世代に確実に継承するため、引き続き、映像記録保存事業を実施してまいります。

また、本年秋には、奥多摩郷土芸能祭を開催し、各地域の貴重な伝統芸能を披露することにより、未来へ向けて継承し、その魅力を町内外に広く発信してまいります。

「第4章 みんなの力がつながる観光・産業づくり」として、

○「住民が元気になる交流観光づくり」では、緑豊かな森林や奥多摩湖など豊富な水環境が豊かな町には、その自然環境を求めて年間212万人を超える観光客が訪れていると推計されております。アフターコロナにおいて、外国人を含めた観光客は増加しており、観光地として、しっかりとした受入れ態勢を整えてまいります。

また、森林セラピー専用ロード「香りの道 登計トレイル」の再整備を

含め、町の特色を活かした事業の推進を図ってまいります。

○「奥多摩ならではの地域産業の推進」では、引き続き、野村不動産ホールディングス株式会社が設立した「森をつなぐ合同会社」と連携し、健全な森林の育成や地域材を活用するなど、持続可能な森林経営の実現に向け、取組を進めるとともに、森林環境譲与税及び令和6年度から始まる森林環境税の積極的な活用を図ってまいります。

また、この4月には、内水面漁業の振興などに携わる、地域おこし協力隊員1名の採用を予定しており、現隊員2名と連携し、地域資源を活用した取組が新たな付加価値を生み出し、新たな「6次産業化」へ繋がるよう、引き続き、支援をしてまいります。

○「観光・産業づくりを推進する力の強化」では、奥多摩観光協会やおくたま地域振興財団、JR東日本八王子支社等と連携しての各種イベントやPR事業の実施など、魅力あふれる奥多摩町の観光や特産物等の情報を提供し、観光客の誘致につなげてまいります。

また、JR東日本と株式会社さとゆめの共同出資会社「沿線まるごと株式会社」では、沿線全体をホテルに見立てる地域活性化プロジェクト「沿線まるごとホテル」の中核となる宿泊施設のブランド名を「Satologo（さとログ）」とし、そのブランド名のもと、古里地区において、この4月以降、レストラン棟とサウナ等を開業し、令和6年度中には、客室棟を開業することを決定いたしました。この開業を機に、「青梅線沿線をまるごと楽しめるホテル」の世界観を構築し、新たな滞在型観光、マイクロツーリズムの創出へ向け、引き続き、連携を図ってまいります。

「第5章 住民と行政がともに考え、ともに築く、住みよい・住みたいまちづくり」として、

○「官民協働による定住対策とまちづくり」では、過疎化による少子高齢化対策や地域コミュニティの維持へつなげるため、空家の活用や子育て応援住宅の建設を実施し、町内への定住、移住が図られるよう定住対策事業を推進してまいります。

事業の実施にあたっては、地権者や空家所有者をはじめ、地域の皆様のご理解、ご協力が不可欠であります。今後も、皆様方のご理解、ご協力を得ながら定住施策を推進してまいります。

○「成果を重視した行政改革の推進」では、第5次行政改革大綱に基づく『量から質への転換を目指した「しごと・ひと・しくみ」の改革』を推進し、町民皆様に満足いただける行財政運営が図られるよう努めてまいります。

また、多様な行政需要への対応と各課の業務を最適化するため、限られた職員数の中、役場組織の見直しを行うとともに、役場内すべての業務の現況調査及び分析により、業務を可視化し、業務の効率化及び人的資源の配分、抜本的な業務改革を行うための業務量調査を実施し、新庁舎建設へ向け、DXの推進を図ってまいります。

○「身の丈にあった健全な財政運営の推進」では、自主財源である町税が年々減少を続け、国や都へ財源を依存している厳しい財政状況の中、各種事業の見直し・再構築を図りながら、事業の実施にあたっては、限りある財源を効果的、効率的に執行し、身の丈にあった健全で堅実な財政運営を推進するとともに、将来の財政需要を見通し、引き続き、基金への積立及び活用を計画的に行ってまいります。

また、町税の収納率は、依然高い水準を維持しており、町税は減少傾向にあるものの貴重な自主財源でありますので、今後も収納事務の対策を緩めることなく、自主財源の確保を図ってまいります。

5 第1回奥多摩町議会定例会提出案件について

令和6年第1回町議会定例会に提出します案件については、条例の制定1件、条例の一部改正5件、条例の整理1件、規約の一部変更1件、指定管理者の指定13件、契約案件1件、令和5年度の一般会計、特別会計及び企業会計の補正予算案7件、令和6年度の一般会計、特別会計及び企業会計の当初予算案8件の合計37件となっております。

なお、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して実施する「高齢者世帯等省エネ家電購入費助成事業」、「住民税均等割のみ課税世帯臨時特別給付金支給事業」及び「住民税非課税世帯等臨時特別給付金こども加算事業」の3事業につきましては、申請など住民からの書類提出により支出する事業であり、4月以降の支出が想定されるため、令和5年度一般会計補正予算、第5号におきまして、繰越明許のご提案をさせていただきますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

これら議案の具体的な内容につきましては、副町長をはじめ所管の課長から説明させていただきますが、いずれの議案につきましても、町の事務

事業を執行していくうえで必要不可欠でありますので、ご審議をいただき、ご決定を賜りますようお願い申し上げます。

6 おわりに

庁舎建設整備事業では、昨年９月に「シェルター・大建設 設計共同企業体」と庁舎建設基本・実施設計業務委託契約を締結し、以降、昨年３月に策定した「庁舎建設基本計画」や庁舎建設委員会からの答申内容並びに住民説明会やパブリックコメントなどでいただいたご意見を踏まえつつ、若手職員等で構成する「新庁舎における職場環境検討委員会」を通じた全庁職員からの意見を盛り込みながら、基本設計作業を進めてまいりました。

また、アクセス通路の整備検討につきましては、庁舎建設委員会での活発な議論や同委員会からの答申に基づき、課題の解決へ向けて、ＪＲ八王子支社、奥多摩工業及び西東京バスとの協議を重ねてまいりました。

さらに、建設用地の取得につきましては、昨年１２月に「土地収用法による事業認定」を取得し、立川税務署との協議を経て「租税特別措置法による譲渡所得等における課税の特例適用」を受け、ここで、物件補償契約を含め、土地売買契約を締結することとなりました。

今後は、今月２１日に実施予定の住民説明会やパブリックコメント、また、多様なステークホルダーからの意見聴取を経て、５月末までに基本設計を完了し、アクセスに関しては、引き続き、関係機関と協議・調整を行いながら、令和７年度の着工を目指し、６月以降の実施設計作業へ繋げてまいります。

また、多摩大学との大学連携事業では、今月２５日に多機能型地域活性化拠点のオープニングセレモニーを予定しており、今後も包括的な連携を通じて、開かれた地域社会を志向し、自然豊かな奥多摩町を軸とした地域社会への貢献を図るため、学生の若い力を借りながら、そして、地域皆様のご理解をいただきながら、引き続き、連携を図ってまいります。

そして、旧琴清苑跡地の活用では、VERTERE（バテレ）新工場が完成し、すでにクラフトビールの醸造を開始しており、４月以降、ボトルショップの開業が予定されております。この新工場を通じ、町、VERTERE（バテレ）合同会社及びＪＲ東日本グループの連携によって、単なる生産規模の拡大ではなく、更なる観光需要を喚起し、地域活性化を推進してまいります。

いずれにいたしましても、今後も民間事業者と連携を図りながら、町内

に点在する空家や町有財産の有効活用にも積極的に取り組んでまいりますので、引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今後の町政運営につきましては、これまでの経験と人脈を最大限に活用し、町民皆様からいただきました町政に対する思いやご意見をしっかりと受け止めさせていただき、町政の発展に向け、全力で取り組むとともに、町民皆様との協働及び議員皆様との議論を踏まえ、町民皆様方が安全で安心して生活できますことを基本として、様々な施策に優先順位を付け、取捨選択をし、一步一步着実な町政の進展を図ってまいりますので、町民皆様、議員皆様のより一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。令和6年第1回奥多摩町議会定例会の開会にあたっての、私の施政方針とさせていただきます。

（なお、本文の内容は、表現等一部異なる場合があります。また、予算額等については、端数調整により予算書と一致しない箇所がありますので、ご了承ください。）